

令和二年 第五回

白井あさぎ七回忌追善

# 春青能

## 半蔀

立花供養

青木道喜

舞囃子 田村 青木真由人  
仕舞 弱法師 片山九郎右衛門

能 半蔀 立花供養

夕顔の霊 青木道喜

雲林院の僧 宝生欣哉 能力 松本 薫

大鼓 河村 大 笛 竹市 学  
小鼓 吉阪 一郎

令和二年四月十一日(土)

午後二時開場 三時開演(茶席あり)

冬青庵能舞台 京都市中京区両替町通夷川下ル

一般 五千元 学生 二千元

主催 春青能実行委員会・青木道喜・白井孝明

白井あさき七回忌追善 第五回

# 春青能 半蔀

立花供養

令和二年 四月十一日 土曜日

午後二時開場

二時五十分まで茶室・待合にて早茶 おくつろぎください

午後三時開演

ご挨拶

舞囃子 田村 青木真由人

大鼓 河村 大 笹 竹市 学  
小鼓 吉阪 一郎

仕舞 弱法師 片山九郎右衛門

—— 休憩約十分 ——

午後四時前頃

能 半蔀 立花供養

夕顔の女の霊 青木道喜  
雲林院の僧 宝生欣哉  
能力 松本 薫

大鼓 河村 大 笹 竹市 学  
小鼓 吉阪 一郎

午後五時過頃終了予定

舞囃子 田村

春の清水寺、夜。古代の武将、坂上田村麻呂の霊が現れ、伊勢国鈴鹿の逆賊を討つために出陣し、千手観音の力も得てこれを果たした有様を見せる。

仕舞 弱法師

春、彼岸の四天王寺。親に捨てられた俊徳丸は、盲目の「弱法師」となった。海に沈む日を拝み、かつて見た難波の風景を想い、舞い興じるが、往來の人に当たつて倒れ、人々に笑われ盲目の身の悲しさを恥じる。

能 半蔀 立花供養

源氏物語「夕顔」を素材にした小品。「半蔀」とは、平安時代の建築に用いられた板戸の一種で、上半分を釣り上げて開ける。荒れはてた夕顔の館を象徴する。

前場 京都北山、雲林院の僧が、ひと夏の修行で毎日供えた花のために「立花供養」を行った。夕暮れに一人の女が現れ、一本の白い花を供えた。僧が、その花の名を尋ねると、女は夕顔と答えた。女に名を尋ねると、五条に住む者と言いつ残して、花の中に消える。

中入 僧は、土地の者から光源氏と夕顔の女の恋物語を聞き、五条に向かう。

後場 半蔀に夕顔が咲く、荒れた館があった。僧が叩く、夕顔を上げ、夕顔の霊が現れる。光源氏との恋の思い出を語り、和歌を歌い、静かに舞う。やがて夜明けの鐘が聞こえ、夕顔は半蔀の中へ消え、僧の夢だったとわかる。小書「立花供養」は、舞台前方に立花が用意される特殊演出。追善の上演にもしばしば用いられる。



観世流能楽師 青木道喜

昭和三十五年京都市生まれ。青木祥二郎の長男。父及び九世片山九郎右衛門（幽雪）に師事。重要無形文化財総合指定者。京都市中京区に冬青庵能舞台を構え、京都を中心に意欲的な活動を展開。宮沢賢治生誕百年記念新作能「永訣の朝」、親鸞上人五百回御遠忌記念能「蓮如」、信州明科オリジナル作品「犀籠小太郎」「恋の龍門洞」、新作狂言「鹿踊りのはじまり」「はしくれ法師」「ものぐさ歌太郎」を書く。海外公演にも意欲的。

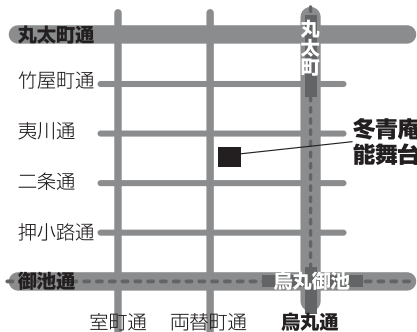
平成二五年には能「泣不動」を復曲。京都の清浄華院で四〇〇年ぶりに上演。平成二八年には高浜虚子作の能「鐵門」の復曲にも携わり、シテを演じる。京都市新人芸術家選奨、安曇野文化大賞を受賞。

※写真は「半蔀・立花供養」（冬青庵能舞台）



## 冬青庵能舞台

京都市中京区両替町通夷川下ル  
地下鉄烏丸線「丸太町駅」6番出口より徒歩3分



京の町家の一角にあるわずか百席余の能空間。演者の呼吸の気配まで感じられる親密な能舞台です。  
[www.touseian.jp/web/](http://www.touseian.jp/web/)  
ホームページでは公演情報はじめ、青木道喜の「仕舞」などの動画をご覧ください。



## お申込 Fax 用紙

お申込みはお電話または、以下にご記入の上お送りください。受付後、チケットと郵便振替用紙を郵送します。

TEL & FAX. 075-241-2215

お名前 \_\_\_\_\_ お電話 \_\_\_\_\_ ご希望枚数 \_\_\_\_\_ 春青能「半蔀」 一般 \_\_\_\_\_ 枚 ・ 学生 \_\_\_\_\_ 枚

ご住所 (〒 \_\_\_\_\_ )